

悲しみから明日へ



—東日本大震災から1年 横浜YMCAの1年間の取り組み—



横浜YMCA

東日本大震災復興支援活動報告書

2011-2012



ごあいさつ

「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ

一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。」

(コリントの信徒への手紙 1 12章26節)

横浜YMCA総主事 田口 努

2011年3月11日14時46分に東日本大震災が発生しました。横浜市中区にある横浜中央YMCAでも震度5強の揺れが3分近く続き、その後も余震が頻繁に起きました。近隣の密集するビル同士が揺れでぶつかりあったり、舗道と建物の間に亀裂が入ったりしながら、YMCAの会館も本館部分と新築部分のつなぎ目(エクспанションジョイント)に大きな損傷を受け、壁が一部落下するなどの事故も発生しました。幸いにも、その他の県内のYMCAの建物及び人的な被害はありませんでしたが、当日は、それぞれのYMCAでも通常プログラムが行われていましたので、子どもたち、学生、会員を避難させ、帰宅するまで見守りました。また公共交通機関が止まった影響で、県内の駅周辺には帰宅できない帰宅困難者があふれ、各YMCAでは、迎えを待つ子どもたちの宿泊対応や、一時的に避難してきた方、帰宅困難者を受け入れました。これが、横浜YMCAの最初の支援活動となりました。夕方には、500kmに及ぶ太平洋沿岸への津波の被害が映像で流れ、驚くべき広域で甚大な被害状況が分かってきました。その後、福島第一原発の爆発事故が起こり、計画停電、ガソリン、食料不足、放射能汚染問題と、地震、津波、原発、風評被害と巨大複合災害となりました。被災した翌週から、神奈川県内40カ所のYMCAの活動拠点では、計画停電、余震が続く中で、安全に通常事業を継続することを目指しながら、全国のYMCA及び、東北にある仙台YMCA、盛岡YMCAと連携しての支援活動を開始しました。



それぞれのYMCAがいち早く募金活動を展開、YMCAを支援する各ワイズメンズクラブも仙台YMCAへ緊急物資を送るなどの支援活動をはじめました。横浜YMCAでは日本YMCA同盟からの要請を受け、盛岡YMCA宮古ボランティアセンターへ3月22日にボランティアコーディネーターの第一陣を派遣したのを手始めに、仙台YMCAと連携、協働し、山元町、南三陸町へのボランティア派遣などの様々な支援活動を行うことになりました。またYMCAのない福島県では、同じキリスト教を基盤とした福祉活動を展開するいわき福音協会を通じて、飲料水等の物資の援助、被爆の不安にある子どもたちや家族を、富士山YMCAに招いたリフレッシュキャンプなどを行ってきました。また、神奈川県内に避難してきている子ども達や家族の支援を他団体と協力、連携して展開しています。このように、岩手県、宮城県、福島県、神奈川県内の被災されている方々の支援に加え、ボランティア派遣、被災者受け入れ、物資送付、子どもたちの運動会支援、リフレッシュキャンプ、物産展での販売による支援、さらには、被災地の雇用支援となる在宅介護員養成などの支援活動も継続しています。

この1年、皆様からの募金をはじめ、多くのご協力をいただき支援活動を継続して参りましたので、1年間の取り組みを報告書にまとめました。被災地からは明るい話題も報告されますが、震災前の日常を取り戻すことの困難さが伝えられています。1年が経過し、改めて、今、私たちが出来ることは何かが問われています。被災地を訪ね、被災地の方々の声を聞き共に寄り添うことは、とても大切なことです。それは、時間と共に他人事になっていく時を自分事に引き戻してくれるはずです。ボランティア活動や「絆旅行」、
「絆消費」を通じて被災者の声を聞き続け、寄り添うことを継続していきたいと思えます。2012年度も盛岡YMCA宮古ボランティアセンターの所長として来年3月まで横浜YMCAスタッフを派遣するなど支援活動を継続しています。そのための募金活動も継続していますので、引き続き皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

東日本大震災被災状況

●発生日時 2011年3月11日 14時46分

●震央地名 三陸沖

●震源の深さ 24km

●規模 マグニチュード 9.0

●最大震度 7 宮城県栗原市

●人的被害

死者 16,278人

行方不明者 2,994人

負傷者 6,179人

●住家被害

全壊 129,198棟

半壊 254,238棟

一部破損 715,192棟

●床上浸水 20,427棟

●床下浸水 15,502棟

●避難者数 344,000人 *1

数値は消防庁「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)について(145報)2012年3月13日発表より

*1 避難者数は復興庁 全国避難者数の数 平成24年3月22日現在

横浜YMCA 東日本大震災復興支援活動

(2012.3.31現在)

●募金総額 32,094,733円

(内訳)

緊急支援募金 10,003,739円

復興支援募金 22,090,994円

*全国YMCA募金総額 351,632,684円

●ボランティア派遣人数 延べ 1,872人

・スタッフ・ボランティア派遣人数 延べ910人

(他団体スタッフ派遣協力含む)

・ボランティアグループを派遣した人数 延べ962人

●県内への被災者受け入れ人数

延べ 2,565人

*街頭募金ボランティアやイベント、

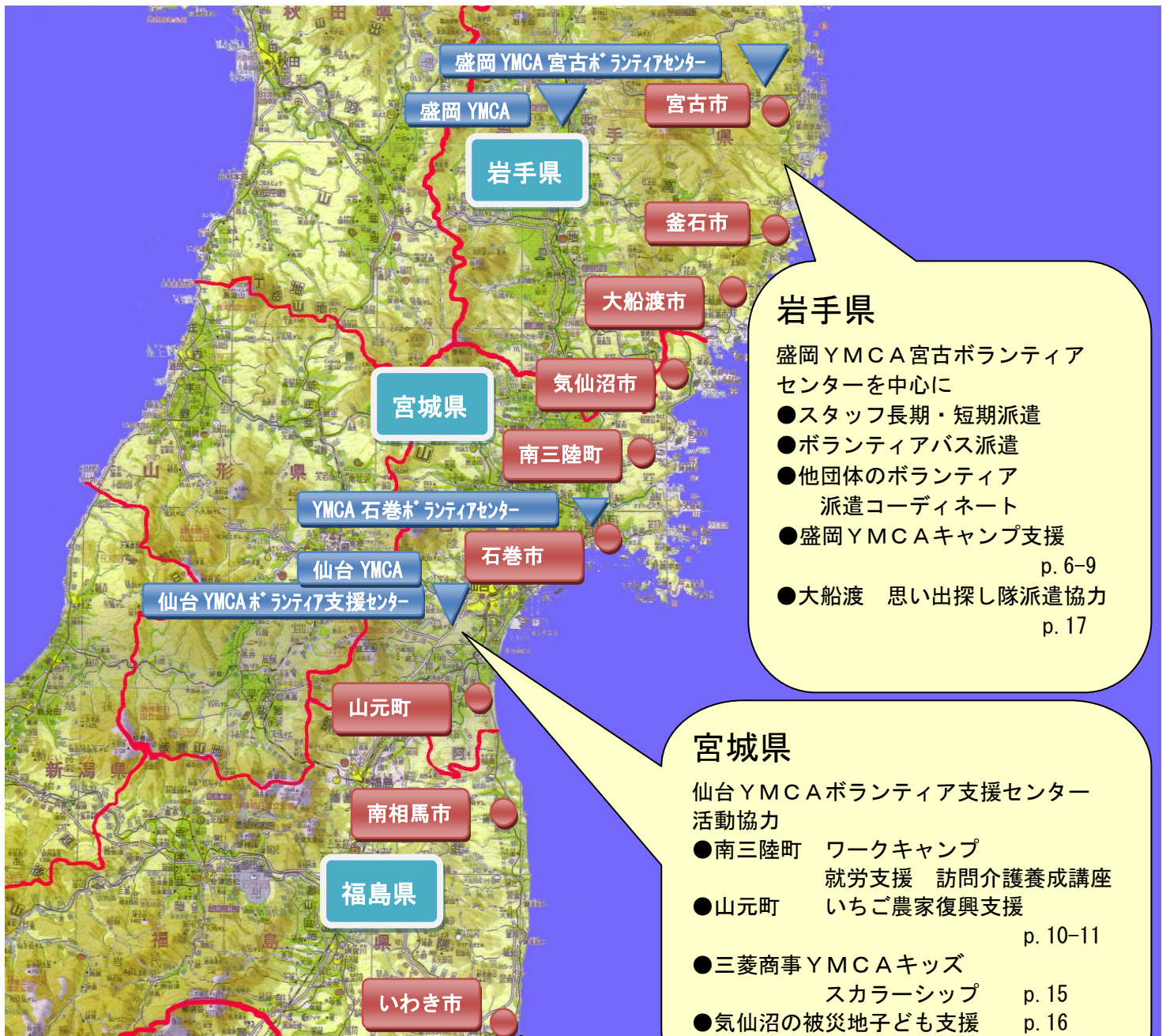
県内での支援活動のボランティアの数は含まれていません。



*表紙の写真は仙台YMCA主催、横浜YMCA協力のもと行われた南三陸町「伊里前小学校 名足小学校レクリエーションDay」

盛岡・仙台YMCAとともに

被災地のYMCAと協働して支援活動



岩手県

- 盛岡YMCA宮古ボランティアセンターを中心に
- スタッフ長期・短期派遣
 - ボランティアバス派遣
 - 他団体のボランティア派遣コーディネート
 - 盛岡YMCAキャンプ支援 p. 6-9
 - 大船渡 思い出探し隊派遣協力 p. 17

宮城県

- 仙台YMCAボランティア支援センター活動協力
- 南三陸町 ワークキャンプ 就労支援 訪問介護養成講座
 - 山元町 いちご農家復興支援 p. 10-11
 - 三菱商事YMCAキッズ スカラシップ p. 15
 - 気仙沼の被災地子ども支援 p. 16
 - 石巻ボランティアセンター p. 16

福島県

- いわき市 保育園・幼稚園受け入れ クレディスイス・YMCA富士山キャンプ p. 12-13 p. 17-18
- 三菱商事YMCAフレンドシップ・キャンプ
- 三菱商事YMCAキッズスカラシップ p. 14-15
- 南相馬の子どもたちのへの「のんびり遊ぼうニコニコキャンプ」 p. 16

- 募金活動やイベント、海外YMCA・地域からの支援 p. 4-5
- 地域、ボランティア団体への派遣協力 p. 16-17
- 県での受け入れ支援を他団体とともに p. 18
- 1年間の横浜YMCA支援活動 p. 20-22
- 資料 これまでの主な災害と横浜YMCAの救援活動の取り組み p. 23

ひとりひとりの気持ちを届けよう

募金活動やイベント、海外YMCA・地域からの支援

未曾有の自然災害となった東日本大震災。被災地では、2万人を超える方々が犠牲になり、40万人が避難所などでの生活を強いられました。3月11日の地震発生日、震度5強を記録した横浜市中区にある横浜中央YMCAでは、発生後、会館内にいた約500人の会員、スタッフが全員、避難場所の横浜公園に避難、その後も余震が続いたため、横浜市庁舎内で待機しました。県内の各YMCA、保育園でも同様に安全な場所への避難が行われましたが、交通網のマヒにより、保育園、学童などを中心に保護者が迎えに来られない子どもなど350人が帰宅できない状況となりました。横浜YMCAが指定管理者の横須賀市立市民活動サポートセンターでは、帰宅困難者ピーク時150人を受け入れ、支援を開始しました。横浜YMCAでは、会員の安全確保を最優先に、3月14日から3日間、保育園、学童クラスを除く全施設を休館して、施設などの点検を行い、17日から再開しました。また、被災した多くの方を支援していこうと、14日から「東日本大震災緊急支援募金」を開始しまし

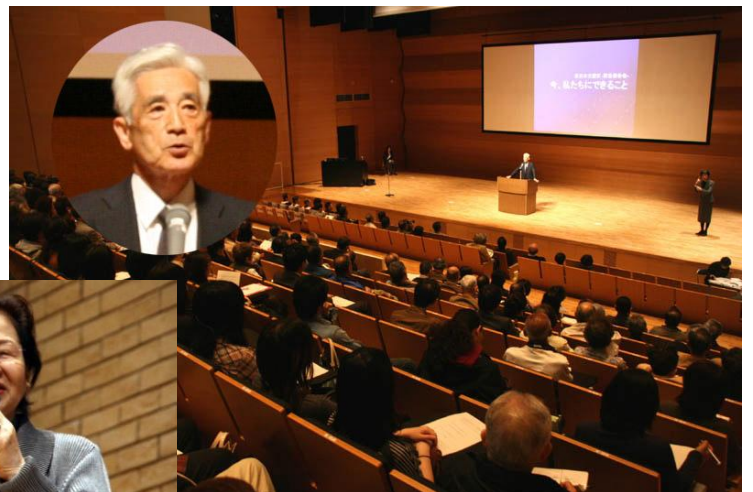
た。県内各地のYMCAでは、子どもたちやユースリーダーを中心に街頭募金が行われました。このうち横須賀YMCA街頭募金では、運営委員のほか、子ども会員、ユースリーダー、スタッフの50人と市内のからの大学生3人の53人が参加しました。その結果、16万円の募金が多くの方から寄せられました。

横浜YMCAでは、3千万円を募金目標とし、県内各地のYMCA・保育園、高齢者施設、指定管理施設において、被災地支援のためのコンサートやイベントなどが繰り広げられました。

2012年3月までに寄せられた募金は、総額3,209万円（緊急支援募金1,000万円、復興支援募金2,209万円）となり、中長期にわたる支援も視野に入れ、コミュニティの復興を前提として被災した子どもたちや高齢者、障がい者、在住外国人などの人々を中心とした支援活動に使われるほか、被災したYMCAの復興支援活動に使われます。



街頭募金



4月23日には阿部志郎県立保健大学名誉学長による緊急集会「今、私たちにできることー東日本大震災ー」

10月10日の横浜YMCAスタッフ全体研修会では、山崎美貴子神奈川県立保健福祉大学前学長を招き「東日本大震災後の復興支援活動と今日的課題」について講演が行われた



YMCA健康福祉専門学校チャリティーウォーク



宮城県の「すずめ踊り」を披露 山手台アルク保育園運動会

海外YMCAからの支援、YMCA支援イベント

横浜YMCAでは復興支援に向けてさまざまなイベントを多くの人々と共にし、被災地への人々に心を寄せて取り組みました。子どもたちから高齢者、会員、ワイズメンズクラブなどYMCAに関わる多くの人々が特色あるイベントが行われ、募金を呼びかけました。

海外のYMCAからの支援

震災直後から、海外にあるYMCAからはお見舞いの電話やメールがあったほか、上海YMCAからは募金が、光州YMCAや台北YMCAからはランタンや充電器、充電式電池などの支援物資が届きました。



光州YMCAからのランタン



台北YMCAからの充電器と電池

チャリティーコンサート



宮城県七ヶ浜出身の星重昭さん企画の「チェロとピアノのタベ」



YMCAキッズゴスペル戸塚が出演した「みんなで一歩前へ」には200人が来場



ワイズメンズクラブのチャリティーコンサート

▼被災地緊急支援・復興支援募金 各YMCA募金額

期 間：2011年3月14日～2012年3月31日

募金額：32,094,733円

地区	YMCA・保育園等名	緊急支援募金	復興支援募金	総計
中央・北地区	中央	744,324	1,634,483	2,378,807
	A C T	231,581	406,659	638,240
	北	581,653	304,348	886,001
	東かながわ保育園	88,341	379,628	467,969
とつか地区	つるみ保育園	0	357,822	357,822
	鶴見中央ケアプラザ	146,934	412,415	559,349
	湘南とつか	637,525	1,731,900	2,369,425
	とつか保育園	146,532	568,687	715,219
とつか地区	とつか乳児保育園	0	772,758	772,758
	東とつか保育園	0	772,758	772,758
	横浜市臨海地区C	119,820	506,133	625,953
	西	241,428	332,644	574,072
	山手台	393,945	630,287	1,024,232
	いずみ保育園	0	288,160	288,160
	ワークサポートセンター	11,235	38,807	50,042
	藤沢・三浦地区	藤沢	352,578	348,413
鎌倉	738,271	1,733,686	2,471,957	
厚木・川崎地区	金沢八景	279,765	425,780	705,545
	マナ保育園	32,150	304,482	336,632
	横須賀	390,260	294,058	684,318
	NPOサポートセンター	395,658	692,156	1,087,814
	三浦ふれあいの村	395,658	692,156	1,087,814
	厚木	142,246	906,528	1,048,774
厚木・川崎地区	ホサナ	0	0	0
	大和FC	569,418	116,793	686,211
	大和L S C	0	0	0
	相模大野	123,220	57,148	180,368
	川崎	561,697	565,580	1,127,277
	かわさき保育園	72,216	300,360	372,576
	たかつ保育園	90,590	161,373	251,963
	富士山YMCA	9,025	279,022	288,047
	本部事務局	2,903,327	7,540,884	10,444,211
	総合計	10,003,739	22,090,994	32,094,733

地域・企業からの支援

- ・電気カーペットプロジェクト 指定募金累計 585,501円
 - ・チューリップ球根 アレナ株式会社 4,000苗
 - ・手編みのマフラー105枚 ミャンマーYMCA
 - ・ボール8インチ45個、縄跳び(2重跳び用)45本、縄跳び(普通)40本
 (株)カシマヤ製作所 福島県いわき市郷ヶ丘幼稚園へ
 - ・コストコホールセールジャパン ミネラルウォーター12,000本
 福島県いわき市の保育園、幼稚園、福祉施設へ
 - ・クレディスイス 協賛金450万円他多数
- ※送付先の記載がないものは宮古ボランティアセンターへ

<海外YMCAからの支援一覧>

- ・上海YMCA 支援金1万USドル
- ・台北YMCA 充電器20個、充電式電池単一など200個
- ・光州YMCA 電池式ランタン500個、乾電池など
- ・カナダ・バンクーバー カナディアン・カレッジ被災者の留学費用無償協力
- ・お見舞い(電話、メール等) 光州YMCA、バンコクYMCA、上海YMCA、台北YMCA、ネピドーYMCA、ミャンマーYMCA同盟、東エルサレムYMCA
- ※台湾 ICCPJ メンバーよりホームステイ先へ、・米国YMCA等の研修受け入れYMCAより研修スタッフへ
- ・米国YMCA等各国から日本YMCA同盟に募金が寄せられる

岩手の人々とともに

スタッフ長期・短期派遣、ボランティア派遣

—盛岡YMCA宮古ボランティアセンターを通して—

横浜YMCAでは宮古市に盛岡YMCAが開設しているYMCA宮古ボランティアセンターにスタッフの派遣を行いました。

短期派遣には、3月22日から30日までは第1次、3月28日から4月3日に第2次スタッフを派遣したほか、4月28日から7月1日までには1週間ごとに6人のスタッフを派遣しました。

また、復興は長期的な支援が必要であるため、7月1日から2012年3月31日まで大塚英彦スタッフを派遣しました。また、さらなる継続した支援を行っていくため、3月1日から2013年3月31日まで所長として大谷昭雄スタッフを派遣し、現地のニーズにあった支援活動を行っています。

昨年5月には、ボランティアバスを派遣し、会員、ユース

リーダー、専門学校生、運営委員、ワイズメンズクラブメンバー、スタッフと共に支援活動を行いました。

宮古ボランティアセンターでは、池田勝一所長と共に、避難生活を送る人々に寄り添い、日々活動しました。池田所長は、震災1年を振り返り「YMCAの活動は一過性のものではなく末永く寄り添っていく必要があります。今後のボランティアセンターの活動は、より一層に宮古の地に根ざした活動を展開するために、これまでにボランティアとして関わった人々との継続的な関わりを大切にし、震災を風化させることなく、一人ひとりに寄り添い活動を継続していくことが求められています」と語りました

横浜YMCAでは、今後も岩手の人々と共に継続した歩みを進めていきます。



ボランティアによるたこ焼きは大人気



現地の人々と顔のみえる関係づくりを通して支援を

瓦礫の撤去や荷物の運搬、炊き出しなど宮古の人々の支援を多くのボランティアが行いました



バザーなどのイベントを通して交流を深めて支援活動を行った

第2次スタッフ短期派遣（2011.3.28～4.3）

復興を目指す決意

三上 淳（富士山YMCA）



活動の拠点となった宮古教会の森分牧師は「この状況から宮古市は復興を目指すのです」と話されました。その言葉を聞き、私自身も力を与えられました。被災された皆様に、寄り添う気持ちを忘れず行動しました。

今後も被災された地域が一日でも早く復興できるよう私たちに出来ることを継続して取り組んでいきたいと思えます。また、皆が笑顔で過ごせる日が訪れるように祈ります。

痛みを分かち合う

青木信哉（YMCA三浦ふれあいの村）



宮古から戻り私自身の日常生活を送る中で、新約聖書の「善きサマリア人のたとえ」が頭に浮かびます。震災と津波で被災した地域、人々は、正に追いはぎに襲われ道ばたに倒れた瀕死の隣人です。隣人の長い復興への道のりに対して、私たちは決して道の反対側を歩く祭司やレビ人であってはなりません。サマリア人のように、心を尽くし、力を尽くし、思いをつくして、弱くされている方々の痛みを分かち合う働きが、強く求められていると感じています。

宮古の人々によりそう



室内の掃除やゴミだし、障子貼りなどをするボランティア



ボランティアセンターがおかれている宮古教会



震災以降、久しぶりに子どもたちの笑顔があふれた運動会



クリスマス宮古の人々とともに

自分の目で実感

1月6日～8日に、宮古市に住む小学生対象のスキーキャンプにリーダーとして参加させていただきました。子どもたちはさまざまな不安を見せずにレッスンに励み、「昨日よりも上手に滑れた!」と皆で達成感を味わい笑顔で参加していました。キャンプの事前準備の中で、宮古市の街を見に行く機会があり、キャンプに参加した子どもが生活をする仮設住宅の訪問や、実際に自分の目で街の様子を見て、ようやく現実に起きた出来事だと認識することができました。そういった中にあっても希望を持ちながら過ごす人々に、安心して暮らせる家と活気のある街に一日でも早く戻ることが願います。貴重な経験ができたことに感謝します。

清水美希（川崎YMCAリーダー）



被災児招待のスキーキャンプ

My Y story YMCAの活動を通してもらった元気を被災地へ

菊池真理恵（川崎YMCA 社会人リーダー）

私は、9月に岩手県にある宮古ボランティアセンターに行きました。がれきやへどろなど大分片付いていましたが、基礎の部分だけ残っている家、今の町並みと災害前の町並みを写真で見比べたとき、津波で家や奥さんを失った話、津波で負った傷を見せてもらったとき、仮設住宅で暮らす年配の人たち、津波で1階部分が柱しかない状態のまま2階で生活しているご家庭など、想像を超えた痛みがそこにあることを知り、報道だけではわからないことがあることを実感しました。

現地では、ボランティアセンターに依頼があったお宅のヘドロの洗浄、本の清掃などを行ないました。実際に、作業をしてみると5、6人で作業していても少しずつしか作業が進まず、もどかしい思いや無力感を感じました。しかし、作業修理後の振り返りの時、日々の作業日誌を見て、毎日少しずつでも多くの人に関わりながら、作業が進んでいることを知り、自分のやっていることは無駄ではない、そして少しずつでも、今、自分ができるところをちゃんとやろうと思いました。

大きい道路の信号が壊れているため、小学生の登校時の交通整理もしました。道を通る車や人に挨拶をしますが、最初は車にも挨拶をするのかと驚きましたが、ほとんどの人が挨拶を返してくれ、「ごろうさま」と声をかけてくださり、こちらがパワーをもらっているような気がしました。宮古での活動を通して、自分の無力さを感じた分、いろんな人と支えあうことができるありがたさと、少しずつでも続けていけば物事は変わっていくということを実感しました。

振り返ると、YMCAの活動でも似たことを教えられました。キャンプ活動などでは、自分の未熟さを感じたこともありましたが、仲間や子どもたちがいたから心強く、頑張ることができました。子どもたちの成長していく姿を見て、信じることの大切さを教えられました。YMCAの活動は、私にとってかけがえのない体験になっています。



餅つき

冬

横浜YMCA保育園の 子どもたちからマフラー



東とつか保育園の子どもたちが手作りのマフラーとメッセージを書いて送りました。心あたたまる一時となりました



ほっと Bank 電気カーペットを 贈ろうキャンペーン



鶴見中央ケアプラザが中心に行った仮設住宅の人々の生活を支援するための、ほっと Bank 電気カーペットキャンペーンには 75 枚分の募金が集まりました。

春

チューリップも応援

▼チューリップの花が繋げる支援の輪

チューリップは、冬を越えて咲く花ということで、冬が厳しいほど綺麗に咲くと、盛岡YMCAの会員の方に聞きました。その盛岡で、横浜YMCAが昨年秋にアテナ株式会社からの支援物資として受けたチューリップの球根4千個が、盛岡市内の幼稚園や保育園の子どもたち、教会、地域の方々によって「仮設住宅の宮古の人が元気に、そして喜びの春を迎えますように」と大切に育てられ、芽が出てくる頃に、仮設住宅に届けられたそうです。家にこもりがちだった仮設住宅の方々は「子どもたちの思いのこもった花を咲かせなければ」と、毎日水やりや手入れを楽しんでいるそうです。「それぞれのプランターを見ながら、近隣の方々との話の花も咲いています」と、大変喜ばれているとのことでした。

球根を育てた盛岡の子どもたちやその家族は、「咲く頃に宮古を訪ねたい」と願い、宮古の仮設住宅の方々は「咲いたら子どもたちに見せたい」と思いをつないでいます。被災地の三陸沿岸と内陸の盛岡は車で3時間ぐらい離れていて、同じ県内でも気候が違いますが、この東日本大震災での被害状



況も違い、地域間の震災に対する思いの温度差があるそうです。なかなか支援出来ないジレンマを感じていた内陸の人たちが、チューリップの花での支援で沿岸部とのつながりが出来てありがたいと言われました。このチューリップ支援プロジェクトを今後も続けていく予定で、球根会社が球根を購入するお客さんに呼びかけ、数個買うと1個が横浜YMCAを通じて被災地に送られるというキャンペーンを始めました。花を育てながら心を繋ぎます。どうぞ引き続きご支援よろしくお願いいたします。

(横浜YMCA総主事マンスリーレポート2012年5月号より抜粋)

長期派遣スタッフ

大塚英彦 (2011.7月~2012年3月)

2012年3月11日。東日本大震災から1年が経ち、この日が近づくにつれて体調を崩す方や気持ちが落ち込む方と多く出会いました。宮古は商店街の再開や住宅の修理を終え自分の家に戻ることができるなど、目に見える形で復興は進んでいます。しかし、目に見えない部分で苦しんでいる方も多くいらっしゃいます。午前中には教会の礼拝にボランティアと参加し共に祈りました。説教を聞き、宮古の方々の気持ちを感じることができました。それは「なぜ？」という疑問の中で我慢し、本当に懸命に生きています。私たちはその方々を支えていく使命が与えられていると再認識しました。



3学期には信号がつき、毎日継続してきた横断歩道での挨拶活動では、保護者の方に「警察や自衛隊がいなくなり、YMCAももういないかと思っていた。宮古の地に来てくれることがありがたい」と話され、地域の方々を受け入れられている嬉しさを感じました。今後も生活の中で困っていることへの細やかな支援が必要になると予想されます。そのためにも宮古の方となるべく多く顔をあわせ、話をしながら必要なこととお話いただける関係を保っていくことが重要になると考えます。

大谷昭雄 (2012.3月~2013年3月 所長)

引継ぎ時よりは宮古市街は復旧が進んできましたが、郊外の仮設住宅における限られた居住スペースと、コミュニティを形成しづらい住環境により、メディアが取り上げない部分のケア、特にメンタル面の管理の難しさについてはこれから大きな課題です。また今後の住居の移転先、方向性も不明なままです。警察や自衛隊の応援がない現在、YMCAのような民間の団体による、地域と一体となり子どもたちを見守り続ける大切さを感じました。これまで継続して活動をしてこられた池田さんと大塚さん、ならびに、ボランティアの方々地道な努力によるものだと思います。



着任後は、仮設住宅の各家庭の入り口前のステップが雨などで滑りやすいため、人工芝を設置したり、炊き出しの案内ちらしを仮設住宅に一軒ずつ訪問して配布しました。

宮古物産展・Tシャツ販売

例年開催する国際・地域協力募金キャンペーンのバザーや東日本復興支援イベントにあわせて、被災地の物産を販売しました。また、宮古市観光協会公認のYMCA宮古復興支援Tシャツの販売を行い、横浜YMCA全体では、743枚を販売し、148万円分の支援となりました。売り上げは宮古市の復興支援、盛岡YMCA宮古ボランティアセンター支援活動に充てられます。



宮古物産展販売品
いかせんべい
きつと芽がでるせんべい
ふのり、さらさら昆布
鮭の中骨缶、龍泉洞コー
ヒー、サイダー、わかめ
加工品など

Tシャツの背面
「浜守人」の文字
浜人は「はんもう
ど」と読み、漁師
を表します。



被災後、改めて
海、浜を守ってい
こうと「守」の文
字を入れ復興の
願いをこめて。



●電気を消して元気を送ろうキャンペーン●

2011年度の節電計画を各YMCAで作成し、横浜YMCA全体で前年比15%減を目標に計画しました。また、省エネ対策の一環として学童クラブなどを中心にグリーンカーテンが作られました。2011年3月11日から12月までの実績は、横浜YMCA全体で15%の電気使用量が削減され、電気料金としては1,214万円の削減となりました。

一人ひとりに寄り添う働きを

震災直後の3月18日から、盛岡YMCA宮古ボランティアセンターは、岩手県宮古市の日本基督教団宮古教会(森分牧師)と協働で支援活動を行いました。ライフライン(電気・水道・ガス)が寸断されヘドロの異臭がひどい中、近隣の家のがれきの撤去・荷物の運搬、天井、壁床はがし・道路側溝のヘドロ除去等の活動がほとんどでした。避難所(小学校体育館)では全くプライバシーがない共同生活でしたが3度の食事も共に食し、疲労がピークに達している高齢者の方を全体で気遣い見守っている心あたたまる場面をよく見受けました。

避難所から仮設住宅への引越しの手伝いをした男性(69才、リュウマチで足が不自由)宅へ声かけ訪問で訪れると、ぐったりとして寝込んでいて体温を測ると39度を越える高熱でした。病院に行く事を拒んでいたのを説得し病院にお連れしたところ、肺炎と脱水症状で緊急入院となり、もう少し遅れていれば手遅れになると言われました。YMCAの活動は一過性のもではなく末永く寄り添っていくことが必要であると感じた出来事でした。必然的に仮設住宅の方・地域住民との交流(ふれあい)が大きな心のケアになると確信し、たこやき、焼きそば

この1年間の宮古への支援活動

3月22日~30日	スタッフ第1次派遣 大谷昭雄、大塚英彦
3月28日~4月3日	スタッフ第2次派遣 三上 淳、青木信哉
4月28日~5月6日	短期スタッフ派遣 瀬谷智明(鶴見中央)
5月6日~13日	短期スタッフ派遣 森山真治(横浜中央)
6月3日~10日	短期スタッフ派遣 生井知三(川崎)
6月5日~8日、 8日~9日	派遣コーディネート 聖光学院高校 1・2年生80人、教員5人 計85人
6月8日	派遣スタッフ要請によりTシャツ送付
6月10日~17日	短期スタッフ派遣 添谷憲一(山手台)
6月17日~24日	短期スタッフ派遣 陶山葉子 (東かながわ保育園)
6月24日~7月1日	短期スタッフ派遣 薩摩藤太(東とつか学童)
6月29日	派遣スタッフ要請によりTシャツ送付
7月1日~ 2012年3月31日	長期スタッフ派遣 大塚英彦(三浦) 短期ボランティア派遣 延べ5人
8月1日~5日	短期ボランティア派遣 延べ5人
8月29日~9月2日	短期ボランティア派遣 延べ6人
9月4日~9日	短期ボランティア派遣 延べ5人
9月12日~16日	秋まつりボランティア派遣 延べ12人
9月17日~18日	短期ボランティア派遣 延べ10人
9月26日~30日	宮古復興支援物産販売
10月~2012年3月	短期ボランティア派遣 延べ6人
10月6日~11日	電気カーペット支援プロジェクト
10月17日~3月31日	短期ボランティア派遣 延べ12人
10月20日~23日	短期ボランティア派遣 延べ20人
10月27日~31日	アテナ株式会社寄贈のチューリップ球根
11月8日	4,000個を送付 短期ボランティア派遣 延べ8人
12月12日~19日	
2012年	フレンドリーキャンプリダー派遣
1月4日~1月10日	延べ28人 短期ボランティア派遣 延べ30人
2月9日~13日	スプリング・スキーキャンプリダー派遣
3月16日~22日	延べ14人

*スタッフ長・短期派遣以外は延べ人数にて表記

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 2011年度所長 池田勝一氏

の炊き出し、運動会やクリスマス会、もちつき等の活動を積極的に行いました。互いに声をかけあい、顔見知りとなり、情報交換する機会となりコミュニティが開かれた働きとなりました。

震災から一年が経とうとしている今、炊き出し活動等では多くの方たちが笑顔を見せていますが、生活再建の見通しが立たない現状とこの冬の寒さ対策に疲れがピークに達していました。今後の活動は、より一層に宮古の地に根ざした活動を展開するために、これまでに関わってくださった多くの方々(山の会・大学団体・個人)の継続的な関わりを大切に、震災を風化させることなく、一人ひとりに寄り添い本当の意味での隣人となれるよう活動を継続していくことが求められています。

最後に、長期出向の大塚英彦氏をはじめ応援のスタッフの方々を宮古の地に送り出していただいた横浜YMCAの皆さん、田口努総理事に心より感謝申し上げます。(横浜青年2012年3月号より抜粋)



宮城の人々とともに

山元町いちご農家との出会い・南三陸町「訪問介護員養成講座」開講

—仙台YMCAボランティアセンターの活動を通して—

横浜YMCAでは、仙台YMCAが運営しているボランティアセンターの活動に協力していきと、震災後の約1カ月後に仙台市山元町（4月28日～5月1日）と南三陸町（5月3日～5日、5月20日～22）にボランティアバスを3回、被災地に派遣しました。このうち山元町で行われた支援活動には、横浜YMCAの会員、専門学校生、リーダー、スタッフなど25人が参加し、復興支援活動を行いました。いちごの産地である山元町では、津波によって多くのビニールハウスが流されましたが、奇跡的に5件が残り、ボランティアは、ビニールハウスの泥だし、掃除、片付けなどを行いました。

海水を吸った泥やビニール袋に巻き込まれた泥の片付けは、見た目以上に負担の大きい活動でしたが、参加者は汗だくになりながらも一生懸命作業を行いました。活動場所となった農園の大坪さん、岩佐さんからは、「一時は再開を諦めていましたが、皆さんから元気をいただき、今年のクリスマスに向けていちごの生産を始めていく力がわいて

きました」との感謝の言葉が寄せられました。

そこで、YMCA健康福祉専門学校（厚木YMCA）では、6月7日から10日まで、再度学生と教員70人が山元町を訪れて、一緒にいちごの苗の植え付けを行い、少しでも早くいちご農園が復帰できるよう継続して支援を行いました。1月には、見事に実ったいちごが山元町の岩佐さんからYMCA健康福祉専門学校に届きました。ボランティアで関わった学生の一人は「こんなに早くいちごができたことは私たちの喜びでもあります。復興への第一歩につながり嬉しく思います」と語りました。

また、南三陸町では、2012年1月から全国のYMCA専門学校によって就労支援と被災地高齢者支援を目的とした「訪問介護員養成講座」が南三陸町役場保健福祉課などとの協働により開催されました。3月の修了式では、各々に、講座をコーディネートした横浜YMCAカレッジグループ小林一郎学院長から修了証が渡されました。この講座は今後も継続して開講されることになっています。

5月

山元町「いちご」一会プロジェクト



ビニールハウス内のがれきの撤去作業



ボランティアのみなさん

共に支え合う大切さを学んだ

私たちは山元町で、ボランティア要望の聞き取りといちご農家での作業を行いました。聞き取り調査では、地図を見ながら一軒、一軒の家にボランティアがお手伝いできることはないか聞いて回りました。家屋の全撤去を意味する赤い旗、庭先には生活用品や家電、しわくちゃんになった卒業アルバムなどが転がり、壁には私の身長をはるかに超えた高さ津波の跡が残っていました。戸別に家を回っていると、今何が重要なのか、という会話から被害の大きさや地震当日のこと、命からがら助かったことなどを話してくださいました。私は言葉を失い、話を聞いてもただ頷くことしかできませんでした。それでも「みんなで協力してがんばるよ」「隣は年寄り一人だから、ボランティア必要だよ」と、自分のことではなく他の人のことを気にかけている様子を見て、私は尊敬の気持ちでいっぱいになりました。いちご農家で仙台YMCAの方が言った言葉をとてもよく覚えています。『見えないものに目を注ぐ』という言葉です。人の心も肉眼では見えないけれど、それを見ようとするのが大切と教

小沼惟さん（YMCA健康福祉専門学校 子ども総合科1年）

えてくれました。今、この畑には何もなければ、農家の岩佐さんにはおいしそうないちごが畑いっぱいになって、今年のクリスマスに子どもたちが食べるケーキの上にいちごののっているのが見えるとおっしゃいました。悲惨な状況の中でも前向きに、それがごく自然なことのようお話して私は大きな勇気をもらいました。私も畑にいちごがいっぱいになる光景を見たいと、心から思いました。山元町ではたくさんの「ありがとう」をもらいました。人と人が支え合うこと、そのために感謝の気持ちを忘れないことを教えてもらいました。被災の悲しさを知り、知らなかった人のことを知りました。たまたま神奈川に生まれ育った私には、今回の震災を免れて与えられた命があります。このことを忘れずに、これからも自分にできることを考え、自分の役割に責任を持ちながら毎日の生活を送らなければならないと思います。



南三陸町での支援活動

5月2日～5日、横浜YMCAでは仙台YMCAとのワークキャンプを行いました。拠点の志津川自然の家には仙台、山梨、横浜YMCAから約75名が集まり支援物資の仕分けや炊き出し、住宅の片付け、がれきの撤去などを行いました。また、4日には最も被害の激しかった歌津（うだつ）地区にある伊里前小学校を訪問し、トライアングルクラスからの文具セットや東かながわ保育園からの鯉のぼり、山手台センターからの折り鶴、湘南とつかYMCAからの折り鶴とメッセージを届けました。

また、21日と22日には伊里前小学校児童230人を対象としたレクリエーションデイが行われ、炊き出しや交流が行われました。横浜YMCAからは、会員、リーダー、学生やスタッフ29人がボランティアとして参加し、主に交流会のプログラムを担当しました。

復興の状況に合わせて求められるニーズに応え、1月には、全国のYMCA専門学校によって、訪問介護員養成講座を地元の役場と協働して開催し、就職への支援を行いました。



横浜YMCAの子どものたちのメッセージ、折り鶴を避難所へ

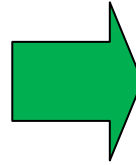


訪問介護養成講座修了式で修了証が手渡される

6月



YMCA健康福祉専門学校ボランティアワークキャンプ



瓦礫など全てが撤去され、きれいになったビニールハウス

1月



いちご農家のご夫妻と



送られたいちごに喜ぶ学生たち

求められる継続的な支援

高石雄也（横浜YMCA学院専門学校 作業療法科1年）

震災が起きてから募金をすることしかできないもどかしさがあり、何かしたいと思っていた時に学校の先生から声がかかり、今回横浜YMCAの一員として被災地でのボランティア活動に参加させていただきました。私たちの活動は、宮城県の山元町でいちごを育てていたビニールハウスの中に入り込んだ泥や流木、家電などががれきの撤去でした。

その農家では、ご主人と奥さん、息子さんの3人で10棟のビニールハウスでいちごを育てていて、翌週には出荷予定だったとお聞きました。しかし、3月11日の地震と津波により大切に育てたいちご、まだ新しいビニールハウス、農具、家屋、車が海水の泥塗れになり、破壊され流されるという酷い状況になってしまいました。

奇跡的に新しくしたハウスが津波のクッションになって津波の勢いを和らげ、古いハウスだけが屋根を残し立ってしてくれたのです。お父さ

んたちは、残された5個の古いハウスと共に、ゼロからではなくマイナスから立ち直ろうとしていました。私たちもそのハウスで再びいちごを育てられることを願い、男性も女性もがスコップを握り、重たい粘土状の泥を運び出す作業を続けました。被災地を離れる時も、短い間全力で活動したので全員の体はボロボロでした。

私はこのボランティア活動に参加して、被災地への継続的にボランティア活動が行われることが重要だと感じています。いつかお父さんたちが作るいちご「もう一個」（ブランド名）がお店に並んだ時が一つの復興の節目になることを思い、これからも出来る支援を続けていきたいと思います。



福島の人々とともに・いわき市の子どもたちと

クレディスイス・YMCA富士山キャンプ

横浜YMCAでは、原発事故により被災した福島県いわき市にある幼稚園や保育園の子どもたちに自然の中で思いきり遊んでもらおうと、8月から2012年1月にかけて静岡県富士宮市にある富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジにて6回のキャンプが行われ、199人が参加しました。このうち、2012年1月18日から20日で行われた清風幼稚園のキャンプでは、YMCA保育園ホサナの5歳児と合同でキャンドルファイヤーなどを行い、交流を深めました。子どもたちは、元気よく草原を駆け回り、虫の観察などを行いました。いわき市内にある園舎では、室内でも長シャツやマスクを着用する子どももいて、さまざまな制約の中

で不自由な日常生活を送っています。このキャンプでは、そうした制約から解放された一時を過ごすことができました。

また、YMCAにかかわる多くの方々の協力もあり、「ミツル&りょうた」の二人がかけつけてミニコンサートが開かれたほか、富士宮ワイズメンズクラブのボランティアによる名物の富士宮焼きそばがふるまわれました。

このキャンプの実施にあたっては、クレディスイスから450万円の協賛が寄せられたほか、多くの人々に支えられて、子どもたちは自然の中で、のびのびと元気よく駆け回り、笑顔あふれるキャンプになりました。



大自然に囲まれ元気よく遊ぶ子どもたち



広い草原での虫取りを楽しむ



雪の中でも笑顔いっぱいキャンプ

受け入れ保育園・幼稚園一覧

9月12日～14日	平幼稚園 40人 担当 中台厚（東かながわ保育園）
9月26日～30日	たかつき保育園 34人 担当 福永隆（東とつか保育園） クレディスイス社員ボランティア 2人
10月31日～ 11月2日	郷ヶ丘幼稚園 40人 担当 井上孝一（マナ保育園）
2012年	清風幼稚園 20人
1月18日～20日	担当 齋藤信（保育園ホサナ）
1月25日～27日	郷ヶ丘幼稚園 41人 担当 井上孝一（マナ保育園）
1月26日～28日	小島保育園 24人 担当 雲走和孝（YMCAアルク）
	参加者総計 199人

富士山キャンプスケジュール（冬） *YMCA保育園合同

1日目	園集合 いわき出発 YMCAに到着 草原で自由遊び 夕食 入浴 ふりかえり お祈り 就寝	凧作り、草原にて 凧揚げ、バイク遊 び、花火 夕食 キャンドル・ファ イヤー* 入浴、就寝
2日目	朝の礼拝、旗揚げ 朝食 水ヶ塚にて雪遊び 昼食 YMCAに帰着 おやつ	3日目 朝の礼拝* 朝食 荷物整理、掃除、 クラフト 昼食 閉村式 YMCA出発 園着

子どもたちが描いた富士山キャンプ



かけがえのないキャンプに感謝状

福島県いわき市の社会福祉法人いわき福音教会の小島保育園の鎌倉富士夫園長が3月10日に横浜YMCAを訪れ、田口総主事に感謝状を授与しました。これは、昨年8月からYMCAがクレ



ディスイスの協賛を得て、いわき市内の保育園・幼稚園児を富士山YMCAに招いてキャンプを行っていることに対して贈られたもので、屋外の遊びが規制されている子どもたちにとって、かけがえのない体験であったことが報告されました。

郷ヶ丘幼稚園

井上孝一（YMCA マナ保育園園長）

郷ヶ丘幼稚園からは、「普通のYMCAのキャンプをしてください」とのことで、礼拝やお祈りを行いました。子どもたちは自然に受入れていたと思います。先生方も良い体験ができたと言ってくれました。キャンプのスケジュールは、子どもたちが外で活動できること、そのための時間をたくさん取ることを優先に立てました。そして、先生方がゆったりして子どもたちと接することができるように、4グループすべてにYMCAリーダーを1名ずつ配置し、ほぼすべての時間を共に過ごしました。



YMCAの保育園を代表してマナ保育園から室内で遊ぶ時に使ってほしいと、あやとりの紐と、子どもからのメッセージをプレゼントしました。今後も継続して交流し、支援ができるように、関わりを持っていきたいと思っています。

清風幼稚園

齋藤 信（YMCA ホサナ保育園園長）

遊びの中で見せてくれた子どもたちの予想を超えたダイナミックなエネルギーには、園長、牧師ともに大変驚かれました。また、経験したことのない2泊のキャンプが子どもたちにとってものすごい自信になったとおっしゃっていました。私たちリーダーも、初日の草原遊びや、雪遊びで子どもたちがはじけるように遊ぶ姿、あるいは閉村式で泣きじゃくる様子から、子どもたちの生命が本能的にこのような体験を求めていると改めて実感しました。



YMCAの保育園児との交流も、お互いに良い刺激になり、励みになったと思います。今後も文通などを通して関係を継続したいと考えます。クレディスイスの皆様、関わってくださった皆様に感謝いたします。

避難している人々とともに

三菱商事YMCAフレンドシップ・キャンプ



東日本大震災で被災し、神奈川に避難されている家族を対象に三菱商事YMCAフレンドシップ・キャンプが行われました。このキャンプは、三菱商事株式会社から日本YMCA同盟に2億6千万円の運営費用や社員ボランティアの協賛を得て、全国のYMCAでキャンプを通して、被災地の子どもたちの支援をしたものです。

横浜YMCAでは、8月から3月までに富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジにて、7回のキャンプが行われ、

195人が参加しました。

8月のキャンプでは、年に2回しか見られないというダイヤモンド富士を見ることや、草原でのマウンテンボードやスポーツを楽しみながらキャンプを行いました。保護者からは、「子どもたちの笑い声や自然の中で楽しむ姿が嬉しかったです」「雄大な自然や皆さんから勇気とパワーをいただきました」との感想が寄せられました。



楽しい思い出いっぱいのキャンプ



虫取りに夢中の子どもたち



富士山をバックに凧揚げ



青空のもと、もちつき大会も行われた

富士山ファミリー・キャンプ

日程：第1回 8月13～14日
第2回 8月14～15日

内容：マウンテンボード、クラフト各種、フルーツコンサート キャンプファイアー、
ダイヤモンド富士を見よう アイスクリュー作り

参加者：5家族17人
ボランティア：12人
(三菱社員ボランティア含)
参加者合計：29人



富士山YMCA年末年始キャンプ

日程：2011年12月31日～2012年1月2日
2012年 1月 2日～4日

内容：年末カウントダウンパーティー、新年パーティー、お正月プログラム（大凧あげ、手づくり凧揚げ、すごろく、羽子板など）、クラフトフェア、餅つき大会、大草原プログラム（マウンテンボード、すすきの迷路など）

参加者：19家族 82人
ボランティア：22人
(三菱社員ボランティア含)

参加者合計：104人



避難している人々とともに

三菱商事キッズスカラシップ

被災地はもとより、全国に一時避難により慣れない土地で不安を持つ被災者が、通常YMCAが行う野外活動を中心とした日帰りから1週間程度までのキャンプに参加することを通して、被災者のリフレッシュ、地域の子どもの交わりや保護者も含めたネットワーク作りを支援するために、日本YMCA同盟を通じて、三菱商事株式会社の協賛を得て各地で行われました。横浜YMCAでは、8月から3月まで9回のキャンプが行われました。

柵池ジュニアスキーキャンプ

期間：12月25日～12月29日
4泊5日

対象：小学1～6年生5人
(全体参加者55人)

期間：3月25日～29日 4泊5日

対象：小学生16人(全体参加者110人)

場所：長野県柵池スキー場

YMCAのスキーキャンプ参加者とスキーや生活を共にし、楽しい一時を過ごしました。



スイミング冬キャンプ

期間：2012年1月7日～8日 1泊2日

対象：小学生～中学生13人(全体参加者25人)

場所：東京都江東区夢の島BumB東京スポーツ文化館

YMCAのスイミングに通う子どもたちと、被災地福島県いわき市のJSSいわきスイミングスクールの子どもの間で、合同の練習を行い、交流を深めました

子どもの笑顔をとりにどす機会のためのキャンプを各地で

●福島県いわき市内 保育園、団体 幼児・児童キャンプ 受け入れ

期間：8月8日～10日

対象：保育園・幼稚園児25人

場所：富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ

●サッカー冬キャンプ

期間：12月27日～29日

2泊3日

対象：小学4年生～中学3年生8人
(全体参加者44人)

場所：静岡県静岡市 日本閣グラウンド



●御殿場はじめてスケートキャンプ

期間：12月27日～29日 2泊3日

対象：小学生1人(全体参加者40人)

場所：静岡県御殿場高原 時之栖スケート場

●スケートキャンプ

期間：2月4日～5日 1泊2日

対象：小学生8人(全体参加者13人)

場所：富士急ハイランド、富士山YMCA

●湯沢ゆきんこキャンプ

期間：12月26日～28日 2泊3日

対象：小学生1人(全体参加者40人)

場所：新潟県湯沢パークスキー場

●YMCA東日本サッカー大会キャンプ

期間：3月26日～29日 3泊4日

対象：小学生～中学生30人(全体参加者200人)

場所：静岡県静岡市 日本閣グラウンド

地域、ボランティア団体とともに

スタッフ派遣による支援協力

横浜YMCAでは、地域にある企業や団体と連携した支援を行いました。4月には県内約30団体でつくる「被災地の子どもを支援する神奈川市民の会」（委員長 田口努横浜YMCA総主事）が「神奈川の子どもを被災地の子どもたちに届けよう」と宮城県気仙沼市の気仙沼市立階上中学校避難所を中心とした支援活動を行いました。

支援物資の受け渡しや被害状況の把握、飲み物サービスと傾聴活動や生活用品の届けなど災害支援本部の支援が行われる中、YMCAは保育士、学童指導員、専門学校や健康教育事業などによる子どもを支援する活動を中心に行いました。この活動は4月から8月までに3回行われ160人が参加しました。

また、6月には横浜市災害ボランティアネットワーク、7月には横須賀市災害ボランティアネットワークにスタッフを派遣し、岩手県遠野や山田町にて活動しました。8月には日本YMCA同盟を通して、子どもの心と身体の成長支援ネットワーク主催の「のんびり遊ぼう～ニコニコキャ

ンプ～」に野外教育専門のスタッフ2名を派遣しました。

さらには、岩手県大船渡市での「思い出探し隊」に3名のボランティアスタッフを派遣。これは、大船渡市内の瓦礫撤去を市役所が発表したことから地元住民が思い出の写真や卒業アルバムなどを探してほしいとNPO法人から、被災地支援をしていた防災科学研究所が依頼を受け、かながわ災害ボランティアネットワーク、各市のボランティアネットワークを通して、藤沢災害ボランティアネットワークから藤沢YMCAに依頼がありました。3メートルにもなるがれきの中から町内会長さんや地元の方々と共に思い出の品を探しました。

横浜YMCAではこの他にも、ボランティアグループの派遣コーディネートも行いました。宮古ボランティアセンターへは、関東学院六浦中学校、聖光学院、ワイズメンズクラブなど各々の被災地支援への思いを被災地につなげる役割を担っています。

神奈川子どもの元気を被災地の子どもに届けよう

- 被災地の子どもを支援する神奈川市民の会
実行委員長 田口努横浜YMCA総主事
場所：宮城県気仙沼市
内容：援助物資の受け渡し、状況把握、仮設トイレの設置、人形劇上演、飲み物サービスと傾聴活動、無線付きバイクによる安否確認・生活用品の届けなど災害対策本部支援、避難希望市民を横浜まで同乗の支援
- 第1次 4月2日～4日 参加者35人
派遣者：田口努（総主事）、山添訓（横浜北YMCA）
- 第2次 4月22日～25日 参加者35人
派遣者：志賀光（北YMCA）
- 第3次 7月15日～18日 参加者90人
派遣者：工藤俊二（YMCA三浦ふれあいの村）

災害ボランティアネットワークとの協働

- 横浜市災害ボランティアネットワーク
日程：6月29日～7月2日 場所：岩手県遠野 派遣者2人
主催：横浜災害ボランティアネットワーク会議、鶴見区災害ボランティアネットワーク
- 横須賀災害ボランティアネットワーク
日程：7月6日～9日 場所：岩手県釜石市 派遣者1人
日程：7月20日～23日 場所：岩手県釜石市 派遣者1人
- 横須賀災害ボランティアネットワーク
日程：7月～10月 場所：岩手県山田町 派遣者5人
主催 社会福祉法人横須賀市社会福祉協議会
横須賀災害ボランティアネットワーク
- 藤沢災害救援ボランティアネットワーク
日程：7月3日～6日 場所：岩手県大船渡市 派遣者1人
※神奈川災害ボランティアネットワーク運営支援として実施

被災地の子どもを支援する神奈川市民の会報告

志賀 光（北YMCA）

4月22日から3日間、宮城県気仙沼市の避難所で活動を行ってきました。私たちは津波の被害が大きかった沿岸部にある避難所をいくつか訪問しましたが、1,000人規模の大きな避難所と100人程度の小さな避難所では、生活の環境が大きく違い、小さなところに目を向ける必要があると感じました。松岩公民館という避難所では、約100人の方たちが生活をされていました。私たちはコーヒーを出すことや、葬式に行きたいが礼服も流されてしまったという方に礼服を寄付しました。

最終日は大谷海岸というところに行きました。浜辺から景色を見渡しましたが、一面がまっ平らになっていました。海岸の立派な松の木がえぐりとられており、家や車などが粉々に散乱していました。海岸近くは一気に流されたためか、周りにはあまり物がなく、逆に少し離れたところに建物などが多く流れ着いていました。中には川を逆流して山のふもとにまで漁船が流されているところもありました。ガレキなどから発さ

れるホコリが風に舞って、避難所などの地域に飛んで肺炎などの被害が流行っていました。このような間接的被害に十分に注意をはらう必要があると感じました。

今まで、当たり前に行っていたことができなくなり、避難所にいる方の多くが家族や親戚を亡くされている現状があり、非常に過酷な状況にあり、それでも「生きたい！生きなきゃいけない！」という強い思いや絆を目にすることができました。小さな一歩が大きな進化となるように気仙沼の被災者を応援できればと思います。津波で何も無くなった場所に1本の桜の花が開こうとしていました。木も強く生きようとしているなど心打たれました。すべてのものに立派な花が咲くようこれからも根気強く生きてほしいと思います。



のんびり遊ぼう～ニコニコキャンプ～

●愛育会病院東日本大震災子どもの心とからだの成長支援のキャンプ

「のんびり遊ぼう～ニコニコキャンプ～」

日 程：8月1日～4日

場 所：日本ボーイスカウト連名那須野営場

主 催：子どもの心と身体の成長支援ネットワーク

協 力：母子愛育会、日本YMCA同盟、ボーイスカウト、ガールスカウト

対 象：福島県相馬市の子ども80人

派遣スタッフ：植松基（YMCA福祉専門学校）

宮本倍幸（横浜YMCAスポーツ専門学校）



思い出探し隊

●思い出探し隊（岩手県沿岸地域：大船渡他）

期 間：第1回 4月9日～10日 第2回 4月23日～25日

第3回 4月29日～5月1日

場 所：岩手県沿岸地域（大船渡ほか）

内 容：被災住民の遺品、アルバム、思い出の品々の探索収集作業支援

主 催：神奈川県、神奈川災害ボランティアネットワーク

協 力：横浜YMCA（物資、ボランティア参加者募集など）

参加者：田代倫子（本部事務局）、井上秀美（厚木Y保育園ホサナ）、

佐藤達哉（藤沢YMCA）



ワイズメンズクラブとともに

●横浜YMCAを支える7クラブのワイズメンズクラブが、各YMCAとともに募金活動、イベントなどの支援活動を行っています。特に支援活動の初期には仙台YMCAに救援物資を送りました。現在も仙台のワイズメンズクラブをはじめ、全国にあるワイズメンズクラブと協働して、石巻ボランティアセンターや各地の支援ボランティアセンターと協働して支援しています。

- ・横浜ワイズメンズクラブ
- ・鎌倉ワイズメンズクラブ
- ・横浜とつかワイズメンズクラブ
- ・厚木ワイズメンズクラブ
- ・金沢八景ワイズメンズクラブ
- ・横浜つづきワイズメンズ&ウィメンズクラブ
- ・横浜関内ワイズメンズクラブ



横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブ



横浜関内ワイズメンズクラブ

ボランティア希望の学校、団体を現地へ派遣

高等学校・大学・ボランティアグループ

●聖光学院高等学校

6月5～8日、6月8～9日

1・2年生80人

教員5人 計85人

沿岸部視察

（陸前高田、大船渡、釜石など）

宮古ボランティアセンターへ文化祭募金100万円支援



●関東学院六浦中学高等学校 7月27日～29日

高校生2～3年生10人、教員3人 計13人

仙台市津波災害ボランティアセンターにて支援

活動仙台五橋教会宿泊

●日本基督教団神奈川教区社会委員会

ボランティアグループ派遣 8月～9月

宮古ボランティアセンターでの支援活動

●ワイズメンズクラブ湘南・沖縄部

●東日本大震災被災者支援集会 翠ヶ丘教会 7月18日

●全国YMCAスタッフ・リーダー対象

グリーンケア（悲嘆ケア）研修会」

・西日本地区 6月25日 場所：神戸YMCA

・東日本地区 6月26日 場所：東京山手YMCA

横浜YMCA参加者

山田啓介（YLDC事業委員、横須賀YMCA運営委員）、

北田純一（川崎YMCA）、野村郁雄（中央YMCA）、

高村文子（国際・地域）

県内での受け入れ支援を他団体とともに

安心して生活できる環境づくりをサポート

県内に避難している被災者を支援していこうと横浜YMCAでは、地域にある団体と協力してさまざまな取り組みを行っています。地震発生間もない18日からは、福島県いわき市にあるいわき海星高等学校の生徒と教員13人をYMCA三浦ふれあいの村に受け入れ避難生活をしました。

また、横浜YMCAの保育事業では、フェリス女学院大学のボランティアが行った「福島県被災児童サマースクール」を実施するための企画協力を行いました。さらには、2011年10月から2013年9月まで「守りたい・子ども未来プロジェクト」実行委員会（共同代表 藤井紀代子・田口努横浜YMCA総主事）が、横浜YMCAや他団体と共催して、放射能汚染による健康被害の不安を抱える子どもとその家族を対象に安心して生活できる環境をサポートしようと、もちつき大会やいちご狩りなどを行いました。この支援は今後も継続して実施されます。

守りたい・子ども未来プロジェクト

期間：2011年10月～2013年9月

内容：放射能汚染による健康被害の不安を抱える子ども及び子どものいる家庭を対象に安心して生活できる環境づくりをサポート

●県内避難者交流会

- ・12月18日「クリスマス会」みんなで作ろう、おっきなクリスマスケーキ（男女共同参画センター横浜）共催：男女共同参画センター横浜
- ・2012年1月22日「もちつき大会」（YMCAとつか保育園）
- ・2月25日「新横浜ラーメン博物館に行ってみよう」共催：神奈川県ユニセフ協会
- ・3月18日「いちご狩り」（厚木市YMCA保育園ホサナ）

主催：「守りたい・子ども未来プロジェクト」実行委員会
（共同代表 藤井紀代子、田口努横浜YMCA総主事）



福島避難者支援

▼福島避難者支援

- いわき海星高校受け入れ 生徒・教員13人
3月18日～3月22日（YMCA三浦ふれあいの村）
- 福島県被災児童サマースクール
8月7日～8月13日（三浦ふれあいの村）
- 福島県保育園児キャンプ受け入れ
8月～9月 富士山YMCAグローバルエコヴィレッジ
- フェリス女学院大学「福島県被災児童サマースクール @かながわ」 8月1日～6日
参加者：福島市、郡山市の被災小中学生23人
主催：フェリス女学院大学
企画協力：横浜YMCA（保育事業）

福島の子どもの笑顔と元気プロジェクト

2012ふくしまキッズ三浦半島

～三浦半島自然まるごと体験～

日時：2012年3月25日～4月1日 7泊8日

場所：YMCA三浦ふれあいの村

参加者：福島県内の幼児～

中学校3年生

ボランティア：6人

主催：福島の子どもの守ろう

プログラム実行委員会

実施団体：NPO法人オーシャン

ファミリー海洋自然体験センター

後援：横浜YMCA



写真：オーシャンファミリー海洋自然体験センター

文部科学省

被災地の子どもに対する夏休み中の体験活動プログラム

横浜YMCA 富士山トレッキングキャンプ8月18日～8月24日（富士山YMCA）中高生5名

教会の有志とともにコンサート

●鎌倉YMCA “Project play to pray”

7月から毎月1回チャリティーコンサートを開催

募金総額は83万円となりました。

場所：鎌倉恩寵教会

主催：日本基督教団鎌倉恩寵教会教会員有志

災害救援ボランティアネットとともに

●生活支援物資を届ける

日時：6月8日

場所：県立女性センター（江ノ島）

主催：藤沢災害救援ボランティアネットワーク

藤沢YMCA高等学院生徒、会員、保護者からの生活支援物資を届けました。

1年間の横浜YMCA東日本大震災支援活動

2011年3月11日～2012年3月31日

3月11日	地震発生後から帰宅困難者受け入れ支援開始
3月12日	日本YMCA同盟に東京、京都、横浜YMCAの総主事が集まり緊急協議
3月12日～	京都YMCA総主事が仙台YMCAへ
3月14日～	緊急支援募金開始
3月14日～	「電気を消して元気を送ろう」キャンペーンの実施
3月16日	鎌倉YMCA街頭募金 YMCA前
3月17日	横浜YMCA東日本大震災被災者募金開始
3月17日	鎌倉YMCA街頭募金 YMCA前
3月18日	鎌倉YMCA YMCA前
3月18日	三浦ふれあいの村近隣住宅訪問募金呼びかけ
3月18日～3月22日	三浦ふれあいの村 いわき海星高校生徒・教員受入れ
3月19日～3月21日	宮城県仙台市スタッフ派遣 井筒洋一
3月19日	西YMCA街頭募金 相鉄ローゼン前
3月19日	鎌倉YMCA街頭募金 YMCA前
3月19日	根岸英一氏ノーベル賞受賞記念講演会 支援募金呼びかけ
3月20日	西YMCA街頭募金 相鉄ローゼン前
3月20日	北YMCA街頭募金 JR菊名駅・YMCA前
3月20日	藤沢YMCA街頭募金 江ノ電藤沢駅前
3月20日	踊場地区センター街頭募金 横浜市営地下鉄踊場駅前
3月20日	厚木YMCA チャリティーイベントファミリーサッカー
3月21日	西YMCA街頭募金 相鉄ローゼン前
3月21日	横須賀YMCA街頭募金 京浜急行久里浜駅前
3月22日	上海YMCA募金受領
3月22日	横浜中央YMCA健康教育部街頭募金 YMCA前
3月22日～29日	全国YMCA協力 仙台、盛岡YMCAへのボランティア・コーディネーター、ボランティア派遣 第1期
3月22日～30日	岩手県宮古市 日本基督教団宮古教会 第1次スタッフ派遣 大谷昭雄、大塚英彦
3月24日	横浜中央YMCA横浜YMCA学院専門学校街頭募金 YMCA前
3月24日	横浜中央YMCA学童街頭募金 YMCA前
3月24日	大和YMCAファミリーセンター 鶴間交差点
3月25日	横浜中央YMCA街頭募金 JR関内駅前
3月26日	横浜中央YMCA街頭募金 JR関内駅前
3月27日	横浜中央YMCA「子ども笑顔プロジェクト」絵本や漫画等を集め被災地へ
3月28日～4月3日	岩手県宮古市 第2次派遣スタッフ 三上淳、青木信哉 他同盟スタッフ2名
3月28日	ユーススキーキャンプ特別プログラム 健康教育事業
3月28日	チャリティーサッカーカップ 仙台YMCAへの応援フラッグ作成 健康教育事業
3月28日	鶴見中央地域ケアプラザ街頭募金 地域ケアプラザ前
3月29日	鶴見中央地域ケアプラザ街頭募金 地域ケアプラザ前
3月29日	ワークサポートセンター パン100個、クッキー30袋 仙台YMCAを通じて立町小学校避難所へ
3月30日～4月30日	全国YMCA協力 仙台、盛岡YMCAへボランティア・コーディネーター、ボランティア派遣 第2期
3月30日	西YMCA街頭募金 相鉄ローゼン前
3月30日	横須賀YMCA街頭募金 北久里浜駅前
3月下旬	専門学校合同卒業式、各保育園卒園式・出発式での募金呼びかけ
4月1日	台北YMCA支援物資受領
4月2日	藤沢YMCA街頭募金 JR藤沢駅周辺
4月2日	YMCA ACT街頭募金 横浜駅西口相鉄口
4月2日	鎌倉YMCA街頭募金 ノースフェース・ヘリーハンセン鎌倉店前
4月2日～4日	第1次「神奈川の子ども元気を被災地の子ども達に届けよう」田口努 山添訓
4月9日～10日	かながわ東日本大震災ボランティアステーション事業思い出探し隊 第1回
4月10日	横須賀YMCA街頭募金 北久里浜駅前
4月11日	鎌倉YMCA東北地方太平洋沖地震追善供養復興祈願祭 共催事業 鶴岡八幡宮・由比ガ浜
4月13日	光州YMCA支援物資受領
4月16日	湘南とつかYMCA街頭募金 JR戸塚駅前・上倉田交差点前

1年間の横浜YMCA東日本大震災支援活動

- 4月16日 金沢八景「チャリティーベビーマッサージ」
- 4月16日 相模大野ステーション街頭募金 相模大野駅前（相模大野ステーションスクエア3階アトリウム）
- 4月17日 YMC三浦ふれあいの村街頭募金
- 4月22日 マナ保育園「東日本大震災支援ペンギンコーヒー」
- 4月22日 YMC健康福祉専門学校 30キロチャリティーウォーク 本厚木～江ノ島
- 4月22日～24日 宮城県仙台市 仙台YMCAボランティア支援センター スタッフ派遣 佐竹博、高村文子
- 4月22日～25日 第2次「神奈川の子どもの元気を 被災地の子ども達に届けよう」主催「被災地の子どもを支援する神奈川市民の会」実行委員会 スタッフ派遣 志賀光
- 4月23日 緊急集会「今、私たちにできること-東日本大震災-」基調講演 県立保健福祉大学名誉学長阿部志郎氏
- 4月23日 YMC ACT 街頭募金 横浜駅前
- 4月23日 YMCファミリージャズチャリティーコンサート 出演 岡 淳氏（ジャズサクソ）、大友 剛氏（ピアノ&マジック） 共催 株式会社Music & Magic 横浜YMCA保育園合同
- 4月23日～25日 かながわ東日本大震災ボランティアステーション事業 思い出探し隊第2回ボランティア募集
- 4月28日～5月1日 ボランティアバス 仙台YMCAボランティア支援センターへ
- 4月28日～5月5日 YMC三浦ふれあいの村「東日本大震災支援バザー」
- 4月28日～5月6日 盛岡YMCA宮古ボランティアセンタースタッフ派遣 瀬谷智明
- 4月29日 横浜YMCAスポーツ専門学校「湘南ウォーキング」 湘南とつかYMCA～辻堂
- 4月29日～5月1日 かながわ東日本大震災ボランティアステーション事業 思い出探し隊第3回 ボランティア募集
- 5月1日～6月 全国YMCA協力 仙台、盛岡YMCAへのボランティア・コーディネーター、ボランティア派遣第3期
- 5月1日～10月31日 復興支援募金 横浜YMCA募金目標3000万円。3億円を目標に全国のYMCAで復興支援募金を展開
- 5月2日～5月2日 ボランティアバス 仙台YMCA企画 南三陸町被災地支援ワークキャンプ ボランティア派遣37人
- 5月6日～13日 盛岡YMCA宮古ボランティアセンタースタッフ派遣 森山真治
- 5月7日～8日 第2回横浜YMCAリーダーズディ「私達にできることは何か」
- 5月17日 全国YMCA協働 全国YMCA救援復興支援活動担当者会 田口努、高村文子
- 5月20日～23日 南三陸町ワークキャンプ&伊里前小学校「レクリエーションデイ」ボランティア派遣29人
- 5月21日 ふざけんぼ劇場影絵劇団「ふざけんぼ」によるあそびうた・影絵 東戸塚小学校体育館 YMCとつか保育園
- 5月22日 富士山YMCA大感謝祭 富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ
- 5月26日～6月14日 無言館「祈りの絵」展 共催 一般社団法人戦没画学生慰霊美術館「無言館」
- 5月28日 横浜YMCA会員総会 特別プログラム～東日本大震災救援活動について～被災地の声と今私たちにできること～ 被災地の盛岡YMCAから濱塚有史総主事を招き、現状と盛岡YMCA宮古ボランティアセンターの構想について報告があった
- 5月28日 自由演奏会@鎌倉大仏主催：「自由演奏会@鎌倉大仏」実行委員会 共催：鎌倉YMCA・YMCA高等学院
- 6月3日～10日 盛岡YMCA宮古ボランティアセンタースタッフ派遣 生井知三
- 6月5日 湘南とつかYMCA みんなで一歩前へ～Charity Concert～ 出演：YMCAキッズゴスペル戸塚 他
- 6月7日～10日 YMC健康福祉専門学校ボランティアワークキャンプ 仙台市山元町 学生、スタッフ派遣73人
- 6月8日 宮古ボランティアセンターにTシャツ送付
- 6月8日 藤沢YMCA高等学院生徒、藤沢YMCA会員、保護者が福島からの避難者生活支援物資を届ける 主催：藤沢災害救援ボランティアネット
- 6月8日～9日 聖光学院高等学校 YMC宮古ボランティアセンターへ派遣
- 6月10日～17日 盛岡YMCA宮古ボランティアセンタースタッフ派遣 添谷憲一
- 6月17日～24日 盛岡YMCA宮古ボランティアセンタースタッフ派遣 陶山葉子
- 6月24日～7月1日 盛岡YMCA宮古ボランティアセンタースタッフ派遣 薩摩藤太
- 6月26日 全国YMCAスタッフ・リーダー対象グリーンケア（悲嘆ケア）研修会」東日本地区参加
- 6月29日 宮古ボランティアセンターにTシャツ送付
- 6月29日～7月2日 横浜市災害ボランティアネットワーク岩手県遠野スタッフ派遣 主催 横浜災害ボランティアネットワーク 協議会、鶴見区災害ボランティアネットワーク
- 7月1日～2012年3月31日 盛岡YMCA宮古ボランティアセンター長期スタッフ派遣 大塚英彦
- 7～8月 全国YMCA協力 仙台、盛岡YMCAへのボランティア・コーディネーター、ボランティア派遣 第4期
- 7月3日 愛育会病院東日本大震災子ども心とからだの成長支援のキャンプ事前研修会
- 7月6日 東日本大震災復興祈念音楽会 第4回チェロとピアノ二重奏コンサート 出演者 星重昭氏（宮城県七ヶ浜出身）、コラ・ヴァン・ナース氏 共催：横浜YMCA 東日本大震災復興祈念音楽会実行委員会
- 7月8日～10日 横須賀災害ボランティアネットワーク岩手県山田町 主催：社会福祉法人横須賀市社会福祉協議会、横須賀災害ボランティアネットワーク ボランティアスタッフ 高橋亮
- 7月9日 鎌倉YMCAチャリティーコンサート「祈り」日本基督教団鎌倉恩寵教会にて

1年間の横浜YMCA東日本大震災支援活動

- 7月15日～18日 第3次「神奈川の子どもの元気を被災地の子ども達に届けよう」宮城県気仙沼市
スタッフ派遣 工藤俊二
- 7月18日 東日本大震災被災者支援集会 翠ヶ丘教会
- 7月23日 合唱団「鯨」第63回定期演奏会「メサイア」会場：横浜みなとみらいホール大ホール
主催：合唱団 鯨
- 7月25日～3月31日 岩手県宮古市ボランティアセンターへのボランティアグループ募集・派遣 24人
- 7月27～29日 関東学院六浦中学高等学校 ボランティア派遣コーディネーター
- 8月1日～4日 愛育会病院東日本大震災子ども心とからだの成長支援キャンプ「のんびり遊ぼう～ニコニコキャンプ～」スタッフ派遣 植松基、宮本倍幸
- 8月1日～6日 フェリス女学院大学「福島県被災児童サマースクール@かながわ」企画協力
- 8月7日～13日 福島県被災児童サマースクール受け入れ 三浦ふれあいの村
- 8月8日～10日 三菱商事キッズ・スカラーシップ 福島県いわき福音協会小島保育園 富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ
- 8月13日 鎌倉YMCAチャリティーコンサート「祈り」日本基督教団鎌倉恩寵教会にて
- 8月13日～14日 三菱商事YMCAフレンドシップ・キャンプ 富士山ファミリー・キャンプ
- 8月14日～15日 三菱商事YMCAフレンドシップ・キャンプ 富士山ファミリー・キャンプ
- 8月18日～8月24日 文部科学省被災地の子どもに対する夏休み中の体験活動等の支援登録プログラム 富士山トレッキング
グキャンプ 富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ
- 8月25日 コストコホールセールジャパン支援物資 ミネラルウォーター12,000本送付
- 8月26日～29日 仙台YMCA主管ボランティア支援センターへのボランティアバス派遣南三陸町 戸倉小・中学校“夏祭り”リーダー派遣 YMCA健康福祉専門学校生4人
- 8月27日 「被災地の子どもを支援する 神奈川県民の会（主催）」報告会
- 8月～9月 日本基督教団神奈川教区社会委員会 ボランティアグループ派遣
- 9月10日 鎌倉YMCAチャリティーコンサート「祈り」日本基督教団鎌倉恩寵教会にて
- 9月12日～14日 クレディスイス・YMCA富士山キャンプ 平幼稚園受け入れ
- 9月17日～9月18日 みやこ秋まつり 盛岡YMCA宮古ボランティアセンターへのボランティア派遣
- 9月26日～9月30日 クレディスイス・YMCA富士山キャンプ たかつき保育園 受け入れ
- 10月～2013年9月 守りたい・子ども未来プロジェクト 主催：守りたい・子ども未来プロジェクト実行委員会
- 10月～2012年3月 宮古復興支援物産販売
- 10月8日 鎌倉YMCAチャリティーコンサート「祈り」日本基督教団鎌倉恩寵教会にて
- 10月10日 横浜YMCAスタッフ全体研修会「東日本大震災後の復興支援活動と今日的課題」山崎美貴子神奈川県立保健福祉大学前学長、「被災地の現状とこれから求められる支援活動」池田勝一盛岡YMCA宮古ボランティアセンター所長
- 10月17日～
2012年3月31日 東北支援電気カーペットプロジェクト「ほっとカーペットを届けよう！！～ほっとBank～」
- 10月31日 コストコホールセールジャパン支援物資 ミネラルウォーター96本送付
- 10月31日～11月2日 クレディスイス・YMCA富士山キャンプ 郷ヶ丘幼稚園受け入れ
- 11月3日 YMCA国際協力募金バザー・オープンハウスにて東日本大震災被災地支援募金 北、湘南とつか、藤沢、鎌倉、横須賀、金沢八景のYMCA、とつか、かわさき、つるみ保育園
- 11月6日 東日本大震災支援ホット&ハートフル・チャリティーコンサート「日本と西洋と音楽」出演 戸塚クラシックコンサートOB会 湘南とつかYMCA
- 11月6日 三浦ふれあいの村 ふれあいフェスタ
- 11月7日～8日 仙台YMCA・全国専門学校との協働調整打ち合わせスタッフ派遣 小林一郎
- 11月7日～8日 山元町支援活動 特別養護老人ホームへの支援活動、いちご農家の支援活動打合せ訪問（横浜ワイズメン&ウイメンズクラブ）特別養護老人施設「みやま荘」（山元町）訪問スタッフ 山添訓
- 11月8日 アレナ株式会社より寄贈を受けたチューリップ球根4,000個の球根を盛岡宮古ボランティアセンターへ
- 11月12日 鎌倉YMCAチャリティーコンサート「祈り」日本基督教団鎌倉恩寵教会にて
- 11月23日 YMCA国際協力募金バザー・オープンハウスにて東日本大震災被災地支援募金の呼びかけ
横浜中央、西、川崎、厚木、金沢八景、山手台のYMCA
- 12月10日 鎌倉YMCAチャリティーコンサート「祈り」日本基督教団鎌倉恩寵教会にて
- 12月18日 県内避難者交流会「クリスマス会」みんなで作ろう おつきなクリスマスケーキ会 共催：男女共同参画センター横浜
- 12月25日～29日 三菱商事キッズ・スカラーシップ 柵池ジュニアスキーキャンプ 長野県柵池高原スキー場

1年間の横浜YMCA東日本大震災支援活動

12月26日～28日	三菱商事キッズ・スカラーシップ 御殿場はじめてスケートキャンプ 静岡県御殿場高原時之栖スケート場
12月27日～29日	三菱商事キッズ・スカラーシップ サッカー冬キャンプ静岡県静岡市 日本閣専用グラウンド
12月31日	三菱商事YMCAフレンドシップ・キャンプ 富士山YMCA年末年始ファミリー・キャンプ
～2012年1月2日	
2012年	
1月2日～4日	三菱商事YMCAフレンドシップ・キャンプ 冬キャンプ富士山YMCA年始ファミリー・キャンプ
1月4日～10日	盛岡YMCA宮古ボランティアセンター フレンドリーキャンプリーダー派遣 4人
1月7日～8日	三菱商事キッズ・スカラーシップ スイミングチーム冬キャンプ 東京都江東区夢の島 BumB 東京スポーツ文化館
1月11日	山元町いちご農家よりYMCA健康福祉専門学校に収穫されたいちごが届く
1月14日	鎌倉YMCAチャリティーコンサート「祈り」日本基督教団鎌倉恩寵教会にて
1月18日～20日	クレディスイス・YMCA富士山キャンプ 清風幼稚園受け入れ
1月21日～22日	三菱商事YMCAフレンドシップ・キャンプ 冬キャンプ富士山ファミリースキーキャンプ
1月28日～3月31日	南三陸町就労支援「訪問介護員養成講座」 コーディネートスタッフ 小林一郎
2月11日	鎌倉YMCAチャリティーコンサート「祈り」日本基督教団鎌倉恩寵教会にて
2月18日～19日	三菱商事YMCAフレンドシップ・キャンプ 冬キャンプ富士山ウィンターファミリーキャンプ
2月11日	YMCAとつか保育園 第2回県内避難者交流会「もちつき大会」
1月25日～27日	クレディスイス・YMCA富士山キャンプ 郷ヶ丘幼稚園受け入れ
1月26日～28日	クレディスイス・YMCA富士山キャンプ 小島保育園受け入れ
3月1日～14日	横浜西YMCA 「西Y感謝メッセージ付きアンジュクッキー販売」
3月1日～2013年3月31日	岩手県宮古市長期スタッフ派遣 大谷昭雄
3月4日～10日	横浜中央YMCA「東北物産展」
3月8日	藤沢YMCA 「東日本大震災一周年にあたり追悼と再生を願う祈禱集会」
3月10日	鎌倉YMCAチャリティーコンサート「祈り」日本基督教団鎌倉恩寵教会にて
3月10日	YMCA ACT街頭募金 横浜駅相鉄口付近
3月11日	川崎YMCA 専門学校・生涯学習合同街頭募金 小田急・JR登戸駅前
3月11日	横浜中央YMCA街頭募金 JR桜木町駅
3月11日	湘南とつかYMCA街頭募金 JR戸塚駅
3月11日	横浜北YMCA「チャリティーコンサート」
3月11日	横浜北YMCA「揚がれ！希望の風IN横浜」
3月11日	富士山YMCA 「揚がれ！希望の風！」
3月14日	鎌倉YMCA「ぼくたちは見た上映会～古居みずえ氏講演会～」
3月16日～22日	盛岡YMCA宮古ボランティアセンター スプリング・スキーキャンプリーダー派遣 2人
3月18日	横浜中央YMCA街頭募金 JR桜木町駅
3月18日	オールYサッカー事業チャリティーサッカーデー
3月25日～4月1日	福島の子どもの笑顔と元気プロジェクト2012ふくしまキッズ三浦半島春プログラム～三浦半島 自然まるごと体験～ 主催：福島の子どもの守ろうプログラム実行委員会 実施：NPO法人オーシャ ンファミリー海洋自然体験センター YMCA三浦ふれあいの村
3月26日～28日	三菱商事YMCAフレンドシップ・キャンプ 春キャンプ富士山スプリングキャンプ
3月29日～31日	東日本大震災被災者支援～きずな&おもいを紡ぐ旅・よこはま～おおふなと「がんばっぺし」心プロ ジェクト ボランティア派遣 5人

*この他にも多くのイベントやプログラムが各地で行われました。



これまでの主な災害と横浜YMCAの救援活動の取り組み



関東大震災

発生日時：1923年9月1日11時58分

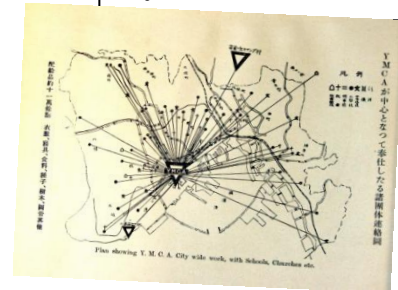


相模湾を震源とし、関東地方を襲ったマグニチュード7.9の地震は、東京・横浜に壊滅的な被害をもたらしました。被害は関東地方の1府6県に及び、震源域に近い神奈川では甚大な被害が出ました。横浜YMCAでは全国のYMCAの協力により、本格的な被災者の救援活動を行いました。

阪神・淡路大震災

発生日時：1995年1月17日5時46分

1月17日早朝に発生した大地震は、大きな被害をもたらしました。横浜YMCAでは、1月18日から支援募金の受付を開始すると共に2月1日から延べ15人の職員・講師を4泊5日の日程で西宮YMCAに派遣しました。2月26日から第一陣として、県内に在住する19歳から51歳までの社会人ら17人を「第1回ワークキャンプ」に派遣しました。以後、全国のYMCAと協力して8月末までに、西宮YMCAの隣接地に建設されたボランティアハウスを使用して、ボランティアを5泊6日の単位で25期にわたり派遣を続けました。



中越地震・中越沖地震

発生日時：2004年10月27日17時56分

発生日時：2007年7月16日10時13分



横浜YMCAでは、ボランティアセンターの立ち上げと運営のためにスタッフを派遣したほか、神奈川災害ボランティアネットワーク、横須賀、横浜、川崎の各ネットワークと協同で、「新潟県中越地震 横浜・災害ボランティアバス派遣実行委員会」を立ち上げ、11月12日～14日、19日～21日の2回にわたって市民ボランティアを募集し定員を上回る150人を派遣しました。



2012年度横浜YMCA基本聖句「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」(ローマの信徒への手紙12章15節)

横浜YMCA — 私たちの使命 —

横浜YMCAに連なる私たちは、イエス・キリストの生き方にもとづき、人間性が尊ばれ、公正で平和な世界の実現を目指し、地域社会に深く根ざしてすべての活動を展開します。

1. 異なった文化、民族、思想、信条を尊重し、共に助け合って生きていく世界を築くことにつとめます。
2. 愛と奉仕の実現のためにボランティア精神をつちかい、人びとに仕え、共に助け合って生きていく世界の実現につとめます。
3. 神によって与えられたすべての自然の生命と人間の生命を大切に、共生していく世界を築くことにつとめます。
4. 人びとの間に自由、平等、正義が尊重され、差別や貧困のない平和な世界をつくりだすために共に力をあわせて働くことにつとめます。
5. 世界の人びとと積極的に交流し、協力し合い、分かち合い、人間性の尊ばれる地球社会をつくり出していくことにつとめます。

横浜YMCAは、被災地の人々と明日に向かって、継続した支援に取り組みます

横浜YMCAでは、これからも全国のYMCAと協働して、被災地にあるYMCAを通して被災された方々を支援活動を行っていきます。集められた募金は、日本YMCA同盟を通して被災地へ、また、横浜YMCAが行う救援、復興活動に用いられます。皆様のさらなるご支援とご協力をお願い申し上げます。

●募金の方法

1. 神奈川県内の最寄りのYMCA窓口にて受付けています。
2. 郵便振込み 郵便局に備え付けの振込用紙にてお振込みをお願いいたします。
店番号：029 口座番号：00230-8-2878 加入者名：財団法人横浜キリスト教青年会
※通信欄に「東日本」ご明記ください。

●ボランティアの希望

個人、企業、学校など、ボランティア活動、その他支援のご希望がありましたら、下記までお問い合わせください。

<問い合わせ先> 横浜YMCA 東日本復興支援担当 TEL. 045-662-3721 梶谷・高村



横浜YMCA

The Young Men's Christian Association of Yokohama

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 TEL. 045-662-3721

<http://www.yokohamaymca.org> E-mail: hamaymca@yokohamaymca.org